

特別展「哲学館人物伝 能海寛——見果てぬチベット」

北 田 建 二

特別展の概要

「諸学の基礎は哲学にあり」という理念のもと、東洋大学の前身・哲学館が創立されたのは、明治20年（1887）のことである。創立者・井上円了は、現在の新潟県長岡市にある真宗大谷派寺院の出身で、京都・東本願寺の国内留学生として東京大学で哲学を学び、大学卒業後に発表した『仏教活論序論』などの著書で、日本の仏教界ではよく知られた存在であった。また、円了は、哲学館の教育趣旨のひとつとして、哲学諸科の教授による教育家・宗教家の育成を掲げたことから、この学校で多くの仏教者たちが学び、巣立っていった。

今回、井上円了記念博物館の特別展で取り上げた能海寛も、そのひとりである。

能海は、円了の誕生から10年後の明治元年5月18日、現在の鳥根県浜田市金城町長田の真宗大谷派寺院・浄蓮寺に生まれた。11歳のとき東本願寺で得度した後、西本願寺普通教校（後に仏教大学を経て龍谷大学）、慶應義塾（現在の慶應義塾大学）を経て、明治24年1月から哲学館に館内員（通学生）として2年半在籍した。明治26年、哲学館での全課程を修了した能海はいったん郷里に戻るが、同年、著書『世界に於ける仏教徒』を世に送り出す。同書において、世界宗教としての仏教の再興と、そのためにチベット仏教の研究が必要であることを訴えた能海は、明治31年11月、海を渡り、チベットへの冒険旅行に挑んだ。しかし、同34年4月、恩師・南条文雄に宛てた書簡を最後に、消息を絶ってしまう。

平成30年（2018）は円了の生誕160周年にして、能海の生誕150周年の節目にあたる。このことから、哲学館で学び、仏教の研究と発展に尽くした能海の業績を振り返り顕彰するため、本学において能海寛生誕150年記念事業の実施委員会を立ち上げ、シンポジウムなどの記念行事を実施する運びとなった。本展も、この事業の一環として開催したもので、能海寛の生家、天頂山浄蓮寺（鳥根県浜田市金城町）より借用した「能海寛関係資料」（浜田市指定文化財、浜田市金城歴史民俗資料館寄託）などを展示し、波乱に満ちた能海の生涯について学生時代を中心に紹介した。

東洋大学では、これまで能海寛については、アジア文化研究所の飯塚勝重氏によって、思想と行動に関する研究が行われてきた。また、『東洋大学百年史』通史編Iにおいて、チベット探検を中心に能海の業績が紹介されている（東洋大学、1993年、pp.463-468）。しかしながら、能海のような哲学館の出身者たちが、在学中、井上円了らからどのような教育を受けたのか。ひいては、その経験が、学生・出身者の将来にどう影響したのか。これまで、井上円了記念博物館において、こうした観点から、哲学館出身者に関する研究・展示を行ったことはなかった。

そもそも、学校は、教える側だけでなく、教わる側もいて、はじめて成り立つものである。今回の展示は、単に哲学館出身者である能海の生涯をたどるということにとどまらず、浜田市金城歴史民俗資料館に保管されている能海寛関係資料と、東洋大学が所蔵する自校史資料をもとに、明治20

特別展「哲学館人物伝 能海寛——見果てぬチベット」

年代の哲学館における教育と人脈について、井上円了の側（教える側）ではなく、円了から教わった学生（出身者）の側から解明しようとする初の試みでもあり、今後の東洋大学史研究の可能性を広げる展示となった。

なお、会期終了後、東洋大学井上円了記念研究助成・研究所プロジェクト「アジア緒言語史資料の汎用性データベース開発と構築」（2016-2018年度、代表：三沢伸生／東洋大学社会学部教授）の一環として、本展の図録『哲学館人物伝 能海寛——見果てぬチベット——』（東洋大学井上円了記念博物館編、東洋大学アジア文化研究所発行、2019年）が刊行されている。展示の構成・資料等については、ぜひ同書にてご確認いただきたい。

今回、特別展を開催するにあたって、多くの方々よりお力添えをいただいた。特に、天頂山浄蓮寺の能海教信師、ならびに浜田市金城歴史民俗資料館の隅田正三館長には、本展の趣旨にご賛同いただき、多大なるご支援をたまわった。また、展示資料の調査では、隅田館長とともに本学井上円了研究センター客員研究員の出野尚紀氏にご協力いただいた。ここに記して御礼申し上げたい。

展示会期・会場

会期：平成30年（2018）10月15日～12月14日

会場：東洋大学井上円了記念博物館展示室（東洋大学白山キャンパス5号館1階）

展示関係者

○協力者（敬称略）

個人：池上正男、井関大介、出野尚紀、岡崎秀紀、隅田正三、能海教信

機関：天頂山浄蓮寺、中村元記念館、能海寛研究会、浜田市金城歴史民俗資料館、浜田市教育委員会、東洋大学井上円了研究センター、東洋大学附属図書館

○企画

能海寛生誕150年記念事業実施委員会、東洋大学アジア文化研究所、東洋大学井上円了記念博物館

○展示担当

森公章（井上円了記念博物館館長、文学部史学科教授）、北田建二（井上円了記念博物館学芸員）

○展示補助

太田有紀（文学部史学科4年）、渡部真理（文学部史学科4年）、西村優花（文学部史学科3年）、藤村彩香（文学部史学科3年）、綿貫陽菜（文学部史学科3年）

借用資料一覧

展示品の総点数は、パネルを含めて、42件である。本来であれば、それらすべてをリストにして本報告に掲記すべきであるが、紙幅の都合により、以下では浜田市金城歴史民俗資料館のご協力のもと、天頂山浄蓮寺よりお借りした「能海寛関係資料」の実物（「弔辞」のみ複製品）に限り、名称を記載した。

資料名	作者等	年代	数量
仏説観無量寿経 本（長浜村浄慶寺 講義聴講ノート）	能海寛自筆	明治22年（1889）6月1日～	1冊
大唐西域記 上巻（巻第1～巻第4）	玄奘三蔵訳、弁機撰、中野五郎左衛門刊	承応2年（1653）刊	1冊
New National Readers No.3（ニュー・ナショナル・リーダー 第3 和訳 手稿本）	能海寛訳（自筆）	明治19年（1886）12月31日	1綴

特別展「哲学館人物伝 能海寛——見果てぬチベット」

普通教校 本科初年級編入証	普通教校（京都西本願寺） →能海寛	明治20年3月3日	1枚
仏教 第128号・第135号	仏教学会発行	明治30年（1897）7月15日，明 治31（1898）年2月15日発行	2冊
Wisdom and Mercy Vol.1 No.1（智慧と慈悲 第1巻第1号）	英文会編，能海寛自筆	明治23年（1890）1月31日	1冊
哲学館 領取証（束脩金1円50銭）	哲学館会計係→能海寛	明治24年1月16日	1枚
純正哲学（哲学館講義録 第七学年度）	哲学館発行	明治26年～27年（1893～1894） 発行	1冊
春秋日録 第9号（第18巻・第19巻）	能海寛自筆	明治24年（1891）1月1日～2 月28日	1帖
世界に於ける仏教徒	能海寛著，大内青巒序， 哲学書院発行	明治26年（1893）11月18日発行	1冊
哲学館在学中のノート 20号（井上円了講述 「応用心理学」，「妖怪学」ほか筆記録）	能海寛自筆	明治25～26年（1892～1893）	1綴
哲学館講師称号 贈与証書	井上円了（哲学館）→能 海寛	明治36年（1863）9月16日	1枚
弔辞	井上円了起草	明治38年7月26日	3枚

（井上円了記念博物館 学芸員）